

2023/3/26 秘密法と共謀罪に反対する愛知の会・総会
講演「「超」監視社会がやってきた！——「マイナンバー」が日本を壊す」

ジャーナリスト・斎藤 貴男

1. 改正マイナンバー法案が閣議決定された

利用範囲は無限大に 健康保険証、運転免許証、預貯金口座との紐づけ…

閣議決定直後の最高裁合憲判決

カード申請率75%超に 国策PRの巨額資金の前に黙り込んだマスメディア

岡山県備前市の恐喝キャンペーン

導入に至った経緯の問題——モデルは「エストニア」だというが

2. 監視資本主義

「マイナカードを持っていないと生活できない社会に」（平井卓也・元デジタル担当相）発言

シミュレーションとしての「スーパーシティ」≠ “新しい生活様式”

「コロナ対策」のまやかし 補正予算・地方創生臨時交付金の使いみち

位置情報が特定されるということ——浮気調査から災害救助まで

データ共同利用権 = 「21世紀の基本的人権」？

3. 経済安保としての監視社会

改正経済安保法案の目玉「セキュリティクリアランス」の正体と意味

キャッシュレス化とデジタル・インボイス

自粛警察・マスク警察・消毒警察・帰省警察・ワクチン警察…

4. 『幸福な監視国家・中国』をどう読むか

限りなく「権威主義国」に近づいていく自称「民主主義国」

道徳心も愛国心も信用スコアリングで査定される世界とは

個人情報漏洩や悪用はどのみち二の次、三の次

「権力vs人民」ではなく、功利主義の手段としての監視社会という考え方

5. ソサエティ5・0

“経済発展と社会的課題を同時に解決する”社会は、“人間中心”と言えるのか？

戦争・治安と功利主義が結びつくとき

全人格が“マイナンバー”に還元されていく

「ビッグ・ブラザー」より恐ろしい「ルーラー」の登場

6. すべては解釈改憲か、憲法改正か、あるいは生き方の問題なのか

安保法制と放送法の解釈変更を目の当たりにして

私が監視社会を憎むわけ

政府の決定的な無能は救いたり得るか

支配されないと生きていけない時代に、それでも服従しない生き方を